

---

# お隣さん

境康隆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

お隣さん

### 【Nコード】

N6330P

### 【作者名】

境康隆

### 【あらすじ】

大した仕事じゃないよ。そうだよなあ？ お隣さん

「お隣さんそこに座ってくれ。遠慮すんな。今日のランチは俺の奢りだ。それと記者さん、こんにちは。生憎の天気だね。おっと、また光りやがった。いや、この雨と嵐は凄いな。こんな酷い落雷は、生まれて初めてだ。そうそう、先ず謝らないとね。すまないね。お昼にインタビューの約束があるのを、ころっと忘れていてね。そう、ブッキングってやつさ。さっき初めて挨拶したこのお隣さんと、趣味が合って意気投合してね。つい、ランチの約束をしてしまったんだ。そんな訳で、同席させてやってくれ。お隣さんへの自己紹介も兼ねて、俺が一人でべらべらしゃべるからよ。何？ 聞かれて、困らないかって？ はは、そりゃいい。あんたらからすれば、未知の仕事だもんな。別に実に簡単な仕事さ。ビュンと飛んでいって、腹に抱えた荷物を落とす。それだけさ。何より向こうは天気がいいからな。操縦してりゃ、それだけでご機嫌さ。そうそう、こっちのこの雷と比べりゃ、同じ地球の上かと思う程だよ。何処までも青空なんだ。暑くないかって？ はは、多分向こうはね。何？ 何でこの仕事に就いたのかって？ そりゃ、子供の頃から趣味だったからさ。あんたも子供の頃には熱中しただろ？ この手のことにはさ。ま、俺の場合、子供の頃だけじゃなくて、ハイスクールを卒業してもだったんだけどよ。そう、引きこもりってやつさ。はは、今は違うよ。今はお隣さんと、ランチを一緒にするぐらい積極的さ。結局何年か家でコントローラを握るだけの生活に、流石に両親が心配してね。この仕事を見つけてきたんだ。この仕事を始めて、俺も随分と明るくなったよ。数年前まで家でゲームしかしてなかった俺が、自分からお隣さんに声をかけたんだぜ。お隣さんと言っても、事務所が隣なだけなんだしな。ほったらかしで、すまないね。お隣さん。ランチはどうだい？ うまいってさ。おっと、また光りやがった。嫌な雷だよ。何？ 罪悪感を感じないかって？ それは会社に言っ

れ。俺は言われた通りにやってるだけさ。他の仕事と大差ないと思うよ。求人票の条件に納得して、雇用契約の内容にサインしたら、後は会社と上司の言うことを聞くだけさ。九時出勤。五時終業。休憩一時間。各種保険あり。通勤費支給。ただし幾らまで。有給は何日。給与はつてね。毎朝決まった時間に起きて、お気に入りの車で渋滞に辟易しながら通勤する。定時がくれば、やっぱり軽い渋滞にばやきながら家に帰っていく。それだけさ。また、光った。こりや、仕事にならないね。やっぱり仕事にならないかって？ そりや、電源が落ちたら、指令が送れないもの。停電に強いつてんで、似たような会社が沢山入ってるこのビルだけど、今日のは流石に想定外だつてさ。送電線も、ビルも同時に雷を食らっちゃね。お手上げさ。向こうはいい天気だつてのに、こっちは落雷でサーバードウン。サーバーは繊細だからね。電気が戻っても、落雷の高電圧くらっちゃいけないつてんで、ブレーカーも上げられない。で、お手上げたと思つて事務所の外にふらつと気分転換に出たら、お隣さんもお手上げだつて顔で出てきたんだ。思わず声をかけちゃったよ。普通の仕事みたいだつて？ そりやそうだよ。特別なことと言えば、誤爆に関することぐらいかな。民間人の誤爆は一日一人五人まで。六人以上は流石に始末書ものだけどね。他は簡単さ。無人機飛ばして、お腹に抱えた爆弾落とす。実際はコントローラを握つて、スイッチを押すだけ。こっちのサーバーから指令が出たら、何千キロと離れた機械が作動する。それだけさ。俺にとつちや趣味の延長みたいなものさ。もう少ししたら、在宅勤務でだつてできるつて話だぜ。映画みたいだつて？ 一昔前ならな。今は現実さ。簡単なものさ。厄介なのは、敵さんの無人機と、今日みたいな落雷かな。敵さんの無人機は向こう側についた別の傭兵会社のものだろ？ 性能に大差がないのさ。地上の現地兵みたいには、ばたばたと倒せない。それに向こうも人が乗ってないからな。落とされても本人は痛くも痒くもないんだよ。という訳で、趣味の合うお隣さんと停電をばやく為此のお昼にしたのさ。落雷やランチで戦争を中断していいのかって？

大丈夫だよ。無人機はランチの時間は自動操縦になるからね。いつものことさ。それに相手の傭兵会社の社員も、今はランチ食ってるさ。この雷に辟易しながらね。な、お隣さん？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6330p/>

---

お隣さん

2010年12月24日18時03分発行